

令和6年度全国学力・学習状況調査

秋田県 調査結果の概要

～調査結果から見られた成果と 課題改善に向けた取組のポイント～

秋田県検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査の教科調査及び質問調査の結果を基に成果と課題を分析し、課題改善に向けた取組のポイントをまとめた「秋田県 調査結果の概要」を作成いたしました。

学校における検証改善サイクルを機能させた授業改善の取組の更なる充実に向けて、本概要を活用してください。



調査結果の概要①

国語

- ・ 小学校第6学年 国語
- ・ 中学校第3学年 国語

調査結果の概要②

算数・数学

- ・ 小学校第6学年 算数
- ・ 中学校第3学年 数学

調査結果の概要③

質問調査

- ・ 主体的・対話的で深い学び
- ・ ICTを活用した学習状況 等

小学校第6学年 国語

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の内容						問題形式		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式
		(1)	(2)	(3)	A	B	C			
全国	67.7	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7	69.9	59.7	64.6
本県	73	67.7 (+3.3)	90.2 (+3.3)	81.1 (+6.5)	65.7 (+5.9)	75.2 (+6.8)	76.6 (+5.9)	74.3 (+4.4)	63.2 (+3.5)	75.0 (+10.4)
自校										

(1)言語の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

概要

○平均正答率は、5ポイント以上全国平均を上回っています。
○「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の全てにおいて5ポイント以上、全国平均を上回っています。

小学校第6学年 国語 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [1ニ(2)]

(正答)
2 と解答しているもの

○成果

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題

全国	52.9	本県	60.9 (+8.0)	自校	
----	------	----	----------------	----	--

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。
- (2) 和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- ※【和田さんのメモ】及び【オンライン交流の様子の一部】は略。実際の調査問題を参照してください。
- ニ 和田さんは、「和田さんのメモ」を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の【オンライン交流の様子の一部】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。
- ※【和田さんに届いたメールの内容】は略。実際の調査問題を参照してください。
- 1 海風小学校の和田さんの学級では、深緑小学校と学校の取り組みをオンラインでしようかいし合うことにしました。和田さんは、深緑小学校の村木さんとしようかいし合おうとしています。次は、村木さんから事前に【和田さんに届いたメールの内容】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

◇設問ごとの顕著な例
 [2二]

- (正答の条件)
 次の条件を満たして解答している。
 ① 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いている。
 ② 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いている。
 ③ 60字以上、100字以内で書いている。

○ 成 果					
目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題					
全国	56.6	本県	67.1 (+10.5)	自校	

- ※【高山さんの文章】及び【高山さんの考え】は略。実際の調査問題を参照してください。
- 二 高山さんは、次の【高山さんの文章】の□に、【高山さんの取材メモ】をもとに考えた「たてわり遊び」のよさを書くこととしています。あなたが高山さんなら、□に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。
- ※【高山さんの文章】及び【高山さんの取材メモ】は略。実際の調査問題を参照してください。
- 〈条件〉
 ○ 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
 ○ 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
 ○ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

2

高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校
のよさを
考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、【高山さんのメモ】と【高山さんの考
え】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

◇設問ごとの顕著な例
 [3三]

- (正答の条件)
 次の条件を満たして解答している。
 ① 【物語】を読んで、以下の内容を書いている。
 a 心に残ったところ
 b 心に残った理由
 ② 【物語】から言葉や文を取り上げて書いている。
 ③ 60字以上、100字以内で書いている。

○ 成 果					
人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題					
全国	72.6	本県	82.9 (+10.3)	自校	

- ※【物語】は略。実際の調査問題を参照してください。
- 三 原さんは、鳥さんと話し合ったあと、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由を
 まとめています。あなたが【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をど
 のようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。
- 〈条件〉
 ○ 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。
 ○ 【物語】から言葉や文を取り上げて書くこと。
 ○ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

3

原さんの学級では、物語を読み、心に残ったところについて説明することになりました。原さんは、
「オニグモじいさんの朝ごはん」という題名の物語を選んで読んでいます。次は、原さんが読んだ
【物語】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

◇設問ごとの顕著な例 [2三ア]

▲ 課 題					
学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題					
学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られます。誤答のうち、「競」の「立」の部分を「土」と解答している児童や、「口」の部分を「日」と解答している児童が見られました。また、「競」と似た読み方をする「球」と解答している児童も見られました。					
全国	43.4	本県	45.3 (+1.9)	自校	

★改善に向けた取組のポイント

漢字を書くことについては、該当学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、該当学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが重要です。第5学年及び第6学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、漢字の持つ意味を考えて使う習慣が身に付くように指導することが大切です。

ア
きょうぎの作戦を考えたりします。

※【高山さんの文章】は略。実際の調査問題を参照してください。

三
高山さんは、「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の部ア、イを漢字でていねいに書きましょう。

※【高山さんのメモ】及び【高山さんの考え】は略。実際の調査問題を参照してください。

2
高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、えです。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

解答類型		秋田県	全 国
◎	「競技」と解答しているもの	45.3	43.4
	「競」と解答しているが、「技」と解答していないもの	12.1	11.0
	「競」と解答していないが、「技」と解答しているもの	15.3	14.0
	上記以外の解答	19.9	18.4
	無解答	7.5	13.2

◇設問ごとの顕著な例 [3一]

▲ 課 題					
文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題					
「かがやいています」の主語を「もやが」とであると判断した児童は、主語を形式的に判別し、文の構成を理解した上で、主語と述語との関係を捉えることができなかったと考えられます。また、「かがやいています」の主語を「まぶしく」と判断した児童は、修飾と被修飾との関係や、主語と述語との関係を捉えることができなかったと考えられます。					
全国	62.3	本県	64.6 (+2.3)	自校	

★改善に向けた取組のポイント

主語と述語との関係については、低学年から繰り返し指導することが大切です。指導に当たっては、日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりすることが重要です。その際、「～が」、「～は」、「～も」のように主語の表し方は様々にあることや、主語と述語が離れて表されている場合があることに留意して指導することが大切です。

1 もやが
2 そして
3 葉は
4 まぶしく

1 原さんは、「物語」の「～」について、かがやいているのは何だろうと考えています。次の部「かがやいています」の主語として適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

2 はらっぱじゅうの1もやが、ひかりの雲にかわり、そして、そのまんなかで、オニグモじいさんの3葉は、かぞえきれないほどたくさんのお日さまでできているように、さらに、さらに、4まぶしくかがやいています。

※【物語】は略。実際の調査問題を参照してください。

3
原さんの学級では、物語を読み、心に残ったところについて説明することになりました。原さんは、「オニグモじいさんの朝ごはん」という題名の物語を選んで読んでいます。次は、原さんが読んだ【物語】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

解答類型		秋田県	全 国
	1 と解答しているもの	16.1	13.8
	2 と解答しているもの	1.7	3.1
◎	3 と解答しているもの	64.6	62.3
	4 と解答しているもの	16.8	18.5
	上記以外の解答	0.1	0.3
	無解答	0.6	2.0

◇国語の学習に関連する質問における特色

〔児童質問(46)〕「国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか」

○肯定的な回答をした児童の割合

全国

78.3

本県

83.2
(+4.9)

自校

〔児童質問(48)〕「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」

○肯定的な回答をした児童の割合

全国

83.2

本県

87.9
(+4.7)

自校

〔学校質問(44)〕「調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合

全国

96.9

本県

98.9
(+2.0)

自校

〔児童質問(42)〕「国語の勉強は好きですか」

●肯定的な回答をした児童の割合

全国

62.0

本県

70.6
(+8.6)

自校

全国を8.6ポイント上回っているものの、経年比較で見るとその差は縮小傾向にあり、改善の余地があると考えられます。

★課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

児童が国語の勉強を好きになるためには、国語の学習を魅力あるものにすることが必要です。例えば、自分の考えを広げ、新しい気付きや発見を得られるようにするために、話や文章の解釈、表現した内容等について比較・検討したり、自らの解釈や表現を再検討したりする学習場面を設定することが考えられます。また、学んだことが対話や文章の作成などに生かされたという実感が得られるように、児童が身に付けた力を生活の中で活用・発揮できる場면을意図的に設定することも考えられます。

中学校第3学年 国語

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の内容						問題形式		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式
		(1)	(2)	(3)	A	B	C			
全国	58.1	59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9	61.0	61.8	45.5
本県	60	62.3 (+3.1)	59.2 (-0.4)	79.7 (+4.1)	61.0 (+2.2)	67.8 (+2.5)	49.5 (+1.6)	63.0 (+2.0)	63.8 (+2.0)	48.0 (+2.5)
自校										

(1) 言語の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと

概要

○平均正答率は、2ポイント程度全国平均を上回っています。

○「A 話すこと・聞くこと」及び「B 書くこと」の平均正答率は2ポイント以上、全国平均を上回っています。

中学校第3学年 国語 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [1四]

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ① フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書いている。
- ② 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書いている。
- ③ 実際に話すように書いている。

○ 成果

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題

全国	44.7	本県	48.9 (+4.2)	自校	
----	------	----	----------------	----	--

※【フィルターバブル現象の資料】及び【話し合いの一部】は略。実際の調査問題を参照してください。

1 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」をもとに、グループで話題を決めて話し合っています。次の【フィルターバブル現象の資料】と【話し合いの一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

四 【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くこと。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

※文章は略。実際の調査問題を参照してください。

三——線部③「ネギの葉」と、——線部④「ナンバンギセルなどの寄生植物」を取り上げて、**1**から**4**までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

「ネギの葉」の例は、**A** を述べるために示されており、「ナンバンギセルなどの寄生植物」の例は、**B** を述べるために示されている。

- 1 植物の葉の二次元的な形が多様に存在すること
- 2 植物の葉の三次元的な形が一言に集約できること
- 3 植物の本質的な生き方には例外がないこと
- 4 植物の本質的な生き方にも例外があること

(正答)
Aの欄に 2、Bの欄に 4 と解答しているもの

文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる問題

◇設問ごとの顕著な例 [3三]

佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた【フートの一部】と【物語の下書き】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（【フートの一部】及び【物語の下書き】の①から④は場面の番号を表します。）

※【ノートの一部】及び【物語の下書き】は略。実際の調査問題を参照してください。

三 「みちたりた」の――線部のひらがなを漢字に直し、楷書でいねいに書きなさい。

(正答)
「満(ち)足(りた)」と解答しているもの

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題

◇設問ごとの顕著な例 [1三]

▲ 課題				
意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題				
原因と結果、意見と根拠の関係を理解し、話や文章の中で捉えることに課題が見られます。				
全国	44.0	本県	42.2 (-1.8)	自校

★改善に向けた取組のポイント

話や文章に含まれている情報と情報との関係について考える際には、意見とそれを支える根拠がどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることができるように指導することが大切です。例えば、話題を決めて互いの考えを話し合う際に、具体的な発言を取り上げ、どの部分が意見でどの部分が根拠なのか、示した根拠が意見を支えるものになっているのかを確かめるなどの学習活動を位置付けることが考えられます。

1 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」を決めて話し合っています。次の「フィルターバブル現象の資料」と「話し合いの一部」をもちに、グループで話題をあの問いに答えなさい。

※「フィルターバブル現象の資料」及び「話し合いの一部」は略。実際の調査問題を参照してください。

- 三 【話し合いの一部】の——線部③「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。」という発言について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。
- 1 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという事実を、具体例を示しながら述べている。
- 2 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという意見を、理由を明確にして述べている。
- 3 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという意見を、理由を明確にして述べている。
- 4 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという事実を、具体例を示しながら述べている。

解答類型		秋田県	全 国
1	と解答しているもの	16.4	17.4
2	と解答しているもの	17.9	17.9
◎	3 と解答しているもの	42.2	44.0
4	と解答しているもの	22.9	20.1
無解答		0.5	0.5

◇設問ごとの顕著な例 [2四]

▲ 課題				
目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題				
目的を明確にした上で必要な情報を適切に取り出して要約することに課題が見られます。				
全国	42.6	本県	42.5 (-0.1)	自校

★改善に向けた取組のポイント

要約する際には、目的を明確にすることが大切です。その上で、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約することが重要です。例えば、目的や相手を明確にして、実生活の中にある文章の内容を要約して伝える学習活動が考えられます。その際、目的に応じて必要な情報を適切に取り出してまとめられているか、自分の言葉を用いてまとめた部分と文章の内容とに隔たりがないかなどを確認しながら、適切さや正確さを意識して要約することができるように指導することが大切です。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

※文章は略。実際の調査問題を参照してください。

- 四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで（どちらを選んででもかまいません。）要約しなさい。
- ア 筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。
- イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。
- なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

（正答の条件）
次の条件を満たして解答している。
① ア と イ のいずれか一つの〈着目する内容〉を選んで、その記号を塗り潰している。
② 選んだ〈着目する内容〉について、必要な情報を適切に取り上げて書いている。
③ 選んだ〈着目する内容〉について、まとめて書いている。

解答類型		秋田県	全 国
◎	条件①、②、③を満たして解答しているもの	42.5	42.6
	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	39.8	36.4
	上記以外の解答	9.8	12.5
	無解答	7.9	8.4

◇国語の学習に関連する質問における特色

〔生徒質問(42)〕「国語の勉強は好きですか」

○肯定的な回答をした生徒の割合

全国

64.3

本県

75.7
(+11.4)

自校

〔生徒質問(48)〕「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか」

○肯定的な回答をした生徒の割合

全国

76.7

本県

84.1
(+7.4)

自校

〔学校質問(43)〕「調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合

全国

95.8

本県

97.1
(+1.3)

自校

〔生徒質問(46)〕「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか」

●肯定的な回答をした生徒の割合

全国

78.7

本県

85.3
(+6.6)

自校

「当てはまる」と回答した生徒の割合は32.7%で、調査問題〔1三〕の結果にみる課題からも改善の余地があると考えられます。

★課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

具体と抽象など情報と情報との関係を捉えて理解できるようにするためには、情報の扱い方に関する指導の改善、充実を図る必要があります。例えば、報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする学習活動の中で、具体的な事例を抽象化してまとめたり、抽象的な概念について具体的な事例で説明したりするなど、具体と抽象の概念を理解する学習場面を設定することが重要です。

小学校第6学年 算数

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域				問題形式		
		A 数と計算	B 図形	C 変化と 関係	D データの 活用	選択式	短答式	記述式
全国	63.4	66.0	66.3	51.7	61.8	75.3	62.0	51.0
本県	65	68.7 (+2.7)	67.8 (+1.5)	50.3 (-1.4)	65.1 (+3.3)	76.6 (+1.3)	63.1 (+1.1)	54.6 (+3.6)
自校								

概要

- 「Dデータの活用」の領域において、3ポイント以上全国平均を上回っています。
- 「記述式」の問題形式において、3ポイント以上全国平均を上回っています。
- 無解答率は、全ての問題で全国平均を下回っています。
- 「C変化と関係」の領域において、1ポイント以上全国平均を下回っています。

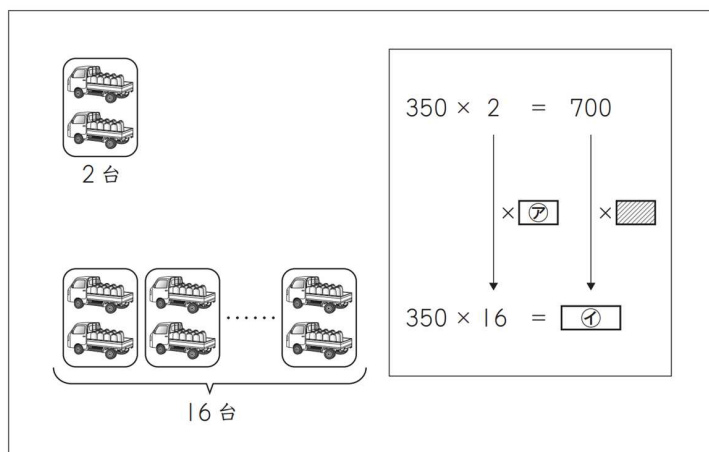
小学校第6学年 算数 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [2(1)]【A数と計算】

[2] トラック1台で、350kgの米を運ぶことができます。

(1) あやのさんたちは、下の図のように、 $350 \times 2 = 700$ であることをもとに、 350×16 の積の求め方についてまとめました。

このとき、 350×16 のかける数「16」が、 350×2 の「2」の何倍になっているかに着目しました。



⑦に入る数に着目すると、 350×16 の積⑦は、どのように求めることができますか。

⑦に入る数に着目したときの④の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、⑦に入る数をどのように求めたのかわかるようにしましょう。また、④に入る数も書きましょう。

(正答の条件)

次の①、②の全てを書き、④を5600と書いている。

① 16が2の8倍であることを表している式や言葉

② 700の8倍になることを用いて、 350×16 の積④を求める式や言葉

○ 成果

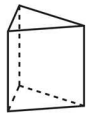
計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題

全国	56.9	本県	66.9 (+10.0)	自校	
----	------	----	-----------------	----	--

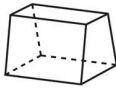
◇設問ごとの顕著な例 [3(4)]【B図形】

3 ことねさんたちは、いろいろな立体について学習したことをふり返っています。

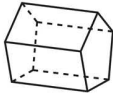
(4) ことねさんたちは、角柱の面の数について考えています。



三角柱



四角柱



五角柱



ことね

三角柱の面は5つです。三角柱には、底面が2つ、側面が3つあるからです。



はると

四角柱の面は6つです。



ひより

五角柱の面はいくつかな。

五角柱の面はいくつですか。答えを書きましょう。また、そのわけを、底面と側面がそれぞれいくつあるのかがわかるようにして、言葉と数を使って書きましょう。そのとき、「底面」、「側面」の2つの言葉を使いましょう。

(正答の条件)
五角柱の面を7と書き、次の①、②の全てを書いている。
① 底面が二つあることを表す言葉と数
② 側面が五つあることを表す言葉と数

○ 成 果					
角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する問題					
全国	72.0	本県	75.4 (+3.4)	自校	

◇設問ごとの顕著な例 [5(2)]【Dデータの活用】

5 こうたさんは、桜の開花日について興味をもちました。桜の開花日とは、各地で基準となっている桜の木で5～6輪以上の花が開いた状態となった最初の日のことです。

(2) こうたさんは、同じ地域に住んでいるよしださんと、桜の開花日が何月だったかについて話しています。



よしださん

私たちの住んでいるC市では、最近では、開花日が3月であることが多いと感じています。しかし、私が子どもだった1960年代は、開花日が4月であることが多かったと思います。

右の表をもとにして、1960年代のC市では、開花日が3月だった年と4月だった年が、それぞれ何回あったかについて、下の表にまとめます。

C市の開花日の月別の回数(1960年代)

開花日の月	回数(回)
3月	㊦
4月	㊩

上の表の中の㊦、㊩にあてはまる数を書きましょう。

(正答)
㊦ 3 と解答
㊩ 7 と解答しているもの

各市の桜の開花日(1960年代)					
年 \ 市	A市	B市	C市	D市	
1960	3月28日	3月23日	3月28日	3月29日	
1961	4月1日	3月31日	4月3日	4月1日	
1962	4月2日	3月30日	4月6日	4月5日	
1963	4月4日	4月2日	4月6日	4月5日	
1964	4月4日	4月2日	4月5日	4月3日	
1965	4月8日	4月2日	4月12日	4月13日	
1966	3月25日	3月26日	3月26日	3月29日	
1967	3月31日	3月29日	3月30日	4月1日	
1968	3月31日	4月2日	4月4日	4月4日	
1969	4月4日	4月5日	4月8日	4月9日	

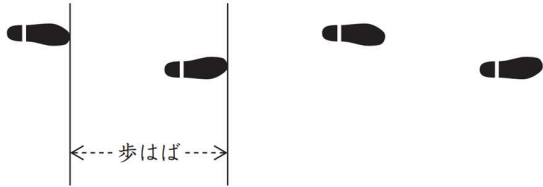
(気象庁ホームページをもとに作成。)

○ 成 果					
簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する問題					
全国	73.3	本県	77.8 (+4.5)	自校	

◇設問ごとの顕著な例
 [4(1)]
 【A数と計算】

4 あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

- (1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。
- 家から学校までの道のりは、540mです。あいなさんの歩はばを0.6mとします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。

$540 \div 0.6$ を計算しましょう。

	解答類型	秋田県	全 国
◎	900 と解答しているもの	69.1	70.1
	90 と解答しているもの	19.5	16.1
	9 と解答しているもの	4.0	4.2
	90、9以外の位取りの誤りがあるもの	2.1	1.8
	上記以外の解答	3.9	4.7
	無解答	1.4	3.1

▲ 課 題				
除数が小数である場合の除法の計算をする問題				
除数の0.6のみを10倍して整数にし、 $540 \div 6$ を計算した誤答が見られました。				
全国	70.1	本県	69.1 (-1.0)	自校

☆改善に向けた取組のポイント

除数が小数である場合の除法の計算について、整数の場合の計算の意味や計算の仕方を活用して、計算ができるようにすることが重要です。その際、筆算による計算の仕方を形式的に指導するだけではなく、除法に関して成り立つ性質を活用し説明する活動を取り入れるなどして、整数の除法と商が変わらないことを理解できるようにすることが大切です。

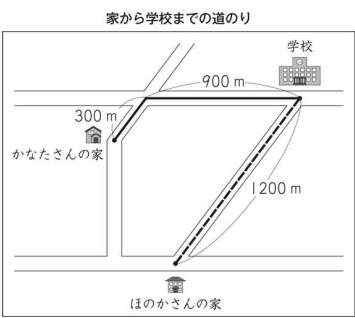
◇設問ごとの顕著な例
 [4(3)]
 【C変化と関係】

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。

家から学校までの道のりは、図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。



下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん

	解答類型	秋田県	全 国
◎	A①、A②の全てを書いているもの	15.6	19.8
	A①を書いているもの	32.3	30.8
◎	B①、B②の全てを書いているもの	12.8	11.2
	無解答	1.3	2.4

▲ 課 題				
道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題				
正しい選択肢を選んでいますが、その理由を的確に記述できていない誤答が見られました。				
全国	31.0	本県	28.4 (-2.6)	自校

☆改善に向けた取組のポイント

歩いた道のりが等しい場合は、かかった時間で速さを比べられることを理解できるようにする必要があります。説明する際には、道のりが等しいことだけではなく、かかった時間が短いことも説明できるようにすることが大切です。

(正答の条件)

番号を1と選び、次のA又はBのいずれかで、それぞれA①、A②の全て又はB①、B②の全てを書いている。

A 道のりが等しいことと、かかった時間を基に、わけを書いている。

A① かなたさんとほのかさんが歩いた道のりが等しいことを表す言葉や数

A② かなたさんがかかった時間がほのかさんがかかった時間よりも短いことを表す言葉や数

B かなたさんとほのかさんのそれぞれの歩く速さを基に、わけを書いている。

B① かなたさんの歩く速さを表す数や式、言葉

B② ほのかさんの歩く速さを表す数や式、言葉

小学校第6学年 算数 質問調査の結果から

◇算数の学習に関連する質問における特色

〔児童質問(54)〕「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」

○肯定的な回答をした児童の割合

全国

77.9

本県

84.6
(+6.7)

自校

算数で学習した内容を、日常生活に活用しようとする意識が高くなっています。

〔児童質問(56)〕「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」

○肯定的な回答をした児童の割合

全国

63.6

本県

72.9
(+9.3)

自校

自らの学びを深めようとする意識が高いことが見取れます。

〔学校質問(48)〕「調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合

全国

94.8

本県

96.6
(+1.8)

自校

児童のつまずきを想定することで、全員がねらいを達成できるような授業づくりが行われています。

〔児童質問(50)〕「算数の勉強は好きですか」

●肯定的な回答をした児童の割合

全国

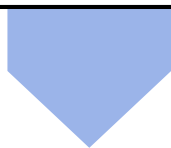
61.0

本県

64.9
(+3.9)

自校

令和3年度から4年連続で低下傾向にあり、また、全国平均との差が徐々に小さくなってきています。



★課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

- ・数学のよさや学ぶことの楽しさを実感できるように、算数を日常の事象と結び付ける活動、具体物を扱った操作的・作業的な活動、実際の数や量の大きさを実験・実測するなどの体験的な活動、表や図、グラフなどからきまりを発見するなどの探究的な活動、解決した問題から新しい問題をつくるなどの発展的な活動等を含んだ数学的活動を通して、児童が活動の楽しさに気付くことができるようにすることが重要です。また、一人一人の考えや困っていることを基に、考えの取り上げ方や発問を吟味し、「分かった」「できた」につながる学び合いを展開することが大切です。

中学校第3学年 数学

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域				問題形式		
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	選択式	短答式	記述式
全国	52.5	51.1	40.3	60.7	55.5	58.5	67.0	29.3
本県	53	50.9 (-0.2)	37.9 (-2.4)	61.5 (+0.8)	57.0 (+1.5)	58.7 (+0.2)	67.0 (±0.0)	29.4 (+0.1)
自校								

概要

- 「Dデータの活用」の領域において、1ポイント以上全国平均を上回っています。
- 無解答率は、ほぼ全ての問題において、全国平均を下回っています。(16問中15問)
- 「B図形」の領域において、2ポイント以上全国平均を下回っています。
- 全国平均を下回っている7問のうち、6問が知識・技能の観点となっています。

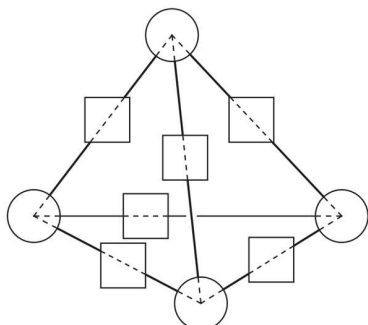
中学校第3学年 数学 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [6(3)]【A数と式】

- [6] 右の図1は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1つずつ入れ、□にはその□がかかっている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。

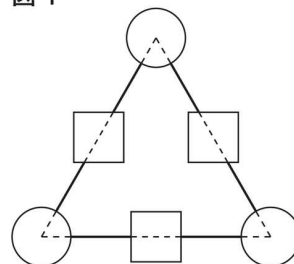
- (3) 優真さんは、正三角形を正四面体に変えても、各頂点の○に入れた整数の和と各辺の□に入る整数の和の間には何か関係があるのではないかと思います。正四面体の図をかいて考えてみることにしました。次の図5は、正四面体の図の各頂点に○を、各辺に□をかいたものです。

図5



このとき、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について、どのようなことが予想できますか。(中略)
「～は、……になる。」という形で書きなさい。

図1



(正答の条件)

「●●は、◆◆になる。」という形で、次の(a)、(b)について記述しているもの。

- (a) ●●が、「□に入る整数の和」である。
 (b) ◆◆が、「○に入れた整数の和の3倍」である。

○成果

統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題

全国	41.8	本県	44.7 (+2.9)	自校	
----	------	----	----------------	----	--

◇設問ごとの顕著な例
 【7(1)】
 【Dデータの活用】

7 海斗さんと咲希さんは、安全性を高めるためにセンサーで障害物を感知して止まる自動車があることを知り、興味をもちました。そこで、車型ロボット用のプログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験をすることにしました。

10 cm の位置から進んだ距離について調べた結果

1.5	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0
2.0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.4	2.4

(単位：cm)

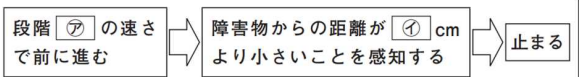
(1) 1 0 cmの位置から進んだ距離について調べた結果をもとに、1 0 cmの位置から進んだ距離の最頻値を求めなさい。

(正答)
 1. 9 と解答しているもの

車型ロボットの説明

- 障害物からの距離を測定できるセンサーがついている。
- プログラムの ⑦、⑧ に値を入れることによって、車型ロボットの速さと、障害物からの距離を設定し、車型ロボットの動きを止めることができる。
- ⑦ は、速さとして最も遅い段階 1 から最も速い段階 5 まで設定できる。
- ⑧ は、距離として 3 cm から 500 cm まで設定できる。

プログラム



○ 成果

与えられたデータから最頻値を求める問題

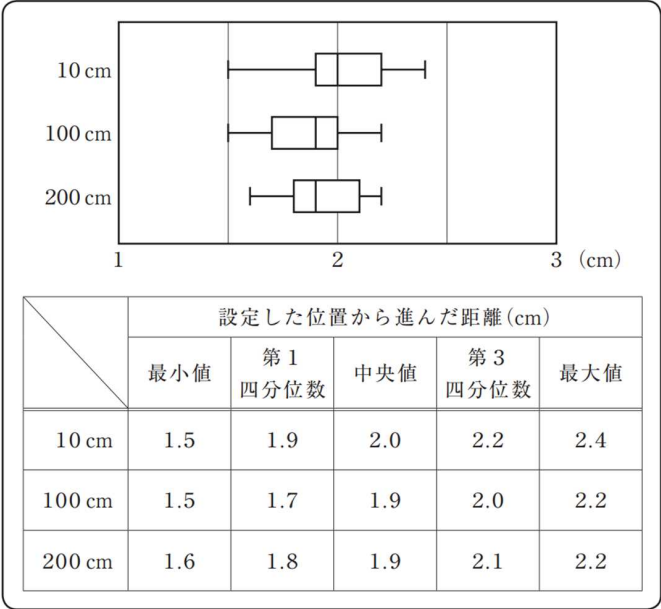
全国	74. 3	本県	78. 3 (+4. 0)	自校	
----	-------	----	------------------	----	--

◇設問ごとの顕著な例
 【7(3)】
 【Dデータの活用】

(3) (前略) 段階 1 の速さで、障害物からの距離を 1 0 cm、1 0 0 cm、2 0 0 cm と長くしていくと、四分位範囲はどうなりますか。設定した位置から進んだ距離の分布から読み取り、正しいものを下の ア から オ までの中から 1 つ選びなさい。

- ア 四分位範囲はだんだん大きくなる。
- イ 四分位範囲はだんだん小さくなる。
- ウ 四分位範囲は大きくなって、小さくなる。
- エ 四分位範囲は小さくなって、大きくなる。
- オ 四分位範囲は変わらない。

設定した位置から進んだ距離の分布



(正答)
 オ と解答しているもの

○ 成果

複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較する問題

全国	48. 5	本県	51. 6 (+3. 1)	自校	
----	-------	----	------------------	----	--

◇設問ごとの顕著な例【1】【A数と式】

① 連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表します。 n を整数とすると、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表しなさい。

解答類型		秋田県	全 国
◎	$2n$ 、 $2n+2$ など、連続する二つの偶数を解答しているもの	32.4	34.8
	正答及び「 $2n$ 」や「 $2n+(\text{具体的な数})$ 」を用いて連続しない二つの偶数を解答しているもの以外で、 n を用いて二つの偶数を解答しているもの	14.4	10.2
	「 n 」や「 $n+(\text{具体的な数})$ 」を用いて差が2である二つの整数を解答しているもの	12.4	13.0
	無解答	9.9	14.3

▲ 課 題					
連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す問題					
連続する2つの偶数を、「 n 」や「 $n+(\text{具体的な数})$ 」を用いて表す誤答が見られました。					
全国	34.8	本県	32.4 (-2.4)	自校	

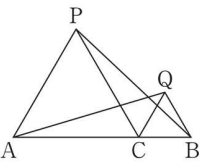
☆改善に向けた取組のポイント

偶数とは2で割ったときに余りが0になる整数であることから、偶数を $2n$ と表せることを確認することが大切です。例えば、連続する二つの偶数を「 $n+2$ 、 $n+4$ 」と表した場合を取り上げ、これらの式の n に具体的な整数を代入したときに連続する二つの偶数を表さない場合があることを理解できるように指導することが考えられます。

◇設問ごとの顕著な例【9(1)】【B図形】

⑨ 線分ABがあります。線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとしします。(後略)

- (1) 桃子さんは、点Cが線分AB上のどこにあっても、 $AQ=PB$ になると予想しました。
- 桃子さんの予想した $AQ=PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ=PB$ になることの**証明**を完成しなさい。



証明

$\triangle QAC$ と $\triangle BPC$ において、
 合同な図形の対応する辺は等しいから、 $AQ=PB$

- (正答の条件)
 次の(a)、(b)、(c)、(d)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。
 (a) $AC=PC$ (b) $CQ=CB$
 (c) $\angle ACQ=\angle PCB$ (d) $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$

解答類型		秋田県	全 国
◎	(a)、(b)、(c)、(d)とそれぞれの根拠を記述しているもの	14.4	19.3
○	(a)、(b)、(c)、(d)について記述しているが、表現が十分でないもの	7.2	6.5
	仮定として、 $AQ=PB$ を用いているもの	10.5	9.3
	(a)、(b)について記述しているもの	10.9	9.6
	無解答	30.1	33.6

▲ 課 題					
筋道を立てて考え、証明する問題					
「結論」を「仮定」として用いて証明する誤答が見られました。また、30.1%の生徒が無解答でした。					
全国	25.8	本県	21.6 (-4.2)	自校	

☆改善に向けた取組のポイント

証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが重要です。本設問を使って授業を行う際には、 $AQ=PB$ は結論であり、三角形の合同条件の根拠として用いることはできないことを確認することが大切です。また、本設問のように、コンピュータを使って成り立つことを見いだす活動を行うことも考えられます。

◇数学の学習に関連する質問における特色

〔生徒質問(54)〕「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」

○肯定的な回答をした生徒の割合

全国

57.2

本県

65.2
(+8.0)

自校

数学の有用性を感じながら、授業で身に付けた資質・能力を普段の生活の中で活用しようとしていることが見取れます。

〔生徒質問(57)〕「数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」

○肯定的な回答をした生徒の割合

全国

77.0

本県

85.7
(+8.7)

自校

多くの生徒が、既習の内容を生かして問題解決に取り組もうとしていることが見取れます。

〔学校質問(47)〕「調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合

全国

94.8

本県

99.0
(+4.2)

自校

数学的に表現する力を高めるための授業づくりをしようとする意識が高いことが見取れます。

〔生徒質問(52)〕「数学の授業の内容はよく分かりますか」

●肯定的な回答をした生徒の割合

全国

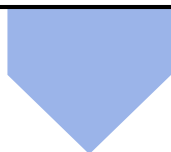
75.7

本県

75.8
(+0.1)

自校

2年連続で肯定的な回答をした生徒の割合が減少しており、全国との差が昨年度に比べ小さくなっています。20%以上の生徒が否定的な回答をしている現状があることから、一人一人の生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業を目指し、引き続き授業改善に取り組む必要があります。



★課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

- ・生徒が「分かった」「できた」を実感するためには、一人一人の学習状況を的確に見取り、考えの取り上げ方や発問を吟味し、学習内容の理解につながる学び合いを展開していくことが必要です。また、授業で学んだことを適用する場面を設定したり、問題解決の過程を振り返ったりして、学習内容の定着を図ることが大切です。

質問調査

児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果には、本県の児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けている状況が表れています。また、各学校における教育活動の取組について、これまでと同様に良好な状況が表れています。

特に、学習習慣や、家庭や地域との関わりに関する質問項目においては、児童生徒質問調査、学校質問調査ともに、肯定的な回答の割合が全国平均と比べて10ポイント以上高い項目が見られ、学校の取組が児童生徒の良好な状況につながっていることがうかがえます。

表の数値は、上段：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合の合計（％）

下段：肯定的な回答のうち「当てはまる」等と回答した割合（％）

グラフの縦軸の数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合の合計（％）

生活習慣、豊かな人間性等

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
朝食を毎日食べていますか。		94.9 (85.5)	+ 1.2 (+ 2.1)	94.0 (83.6)	+ 2.8 (+ 4.5)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。		93.5 (59.3)	+ 1.9 (+ 3.2)	94.4 (61.5)	+ 1.9 (+ 6.2)
自分には、よいところがあると思いますか。		86.3 (45.4)	+ 2.2 (+ 2.0)	87.0 (43.7)	+ 3.7 (+ 3.3)
将来の夢や目標を持っていますか。		87.5 (67.6)	+ 5.1 (+ 7.0)	74.4 (43.8)	+ 8.1 (+ 7.7)
学校に行くのは楽しいと思いますか。		86.4 (47.9)	+ 1.6 (+ 0.7)	87.1 (48.6)	+ 3.3 (+ 5.1)
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。		81.6 (33.7)	+ 5.8 (+ 3.4)	81.6 (35.0)	+ 5.4 (+ 4.7)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。		90.7 (50.9)	+ 7.2 (+14.1)	86.9 (41.6)	+10.8 (+15.2)

学習習慣

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。		(30分以上) 92.2	+10.6	(1時間以上) 74.2	+ 9.9
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。		(1時間以上) 72.3	+23.7	(2時間以上) 53.4	+17.2
学校質問調査		小学校		中学校	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。		98.8 (69.1)	+ 2.7 (+21.9)	97.1 (45.7)	+ 5.2 (+12.8)
前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。 [新規]		97.1 (57.1)	+ 7.4 (+21.1)	95.2 (43.8)	+11.2 (+19.1)

主体的・対話的で深い学び

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。		86.6 (34.7)	+ 4.7 (+ 5.2)	85.3 (32.6)	+ 5.0 (+ 5.4)
前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。		85.1 (36.4)	+ 5.5 (+ 6.7)	84.0 (33.3)	+ 8.6 (+ 8.6)
前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。		89.3 (42.7)	+ 5.0 (+ 8.3)	85.9 (32.9)	+ 5.0 (+ 8.0)
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。 [新規]		89.7 (48.8)	+ 3.4 (+ 7.4)	91.5 (48.2)	+ 5.4 (+11.8)
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。		88.2 (42.8)	+ 7.4 (+10.9)	84.7 (36.1)	+ 6.8 (+ 9.0)
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。 [新規]		94.6 (57.7)	+ 3.0 (+ 9.9)	95.2 (56.2)	+ 2.9 (+10.1)

学校質問調査	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
授業では、児童生徒が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。	90.3 (20.0)	+ 2.1 (- 0.1)	88.6 (16.2)	+ 0.2 (- 4.4)
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか。 [新規]	93.7 (33.7)	+ 0.1 (+ 2.0)	98.1 (32.4)	+ 2.0 (- 4.6)
前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	89.7 (17.7)	+ 2.3 (- 2.6)	88.5 (17.1)	+ 1.9 (- 2.0)
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	91.4 (14.3)	+ 5.7 (- 4.3)	77.2 (10.5)	- 1.4 (- 4.3)

家庭や地域との関わり

学校質問調査	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
(小学校) 職場見学を行っていますか。 (中学校) 前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか。	(行っている) 58.9		(1日以上) 89.5	
		+15.7		+13.4
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。	98.3 (50.3)	+ 9.4 (+13.6)	87.7 (22.9)	+ 3.6 (- 5.7)

ICTを活用した学習状況

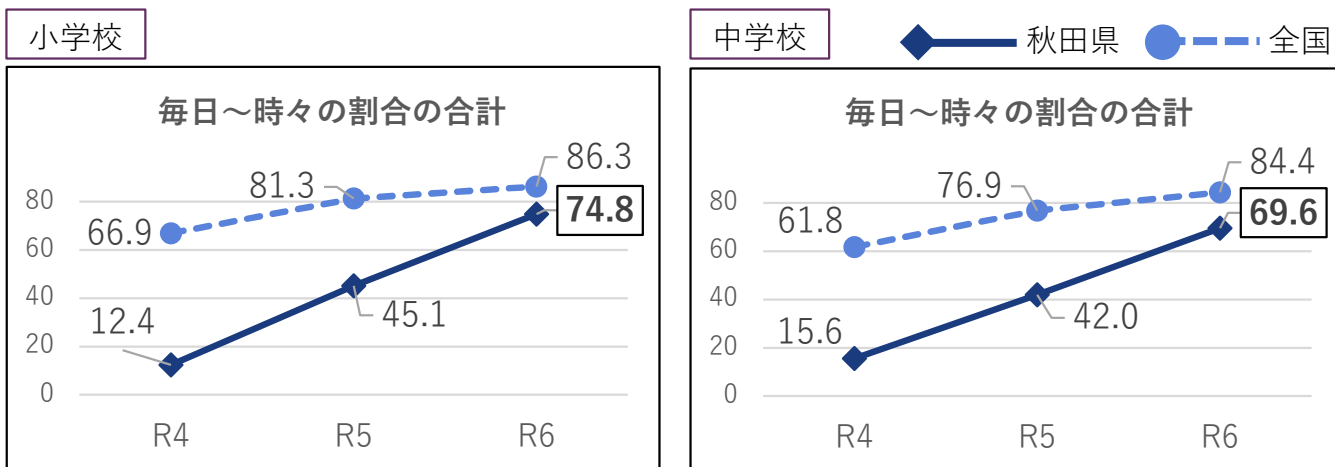
授業におけるICT機器の活用頻度（週1回以上）が、昨年度と比べて高くなっており、ICT活用の推進が図られている様子がうかがえます。また、ICT機器を活用することは、様々な場面で役立つと考えている児童生徒が多いことがうかがえます。

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。		(週1回以上) 86.5	+ 1.0	(週1回以上) 90.0	+ 1.0
ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。 [新規]		91.6 (43.2)	+ 6.1 (+ 9.4)	84.7 (35.5)	+ 4.5 (+ 6.8)
ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。 [新規]		85.2 (40.2)	+ 6.0 (+ 6.9)	83.1 (37.2)	+ 5.4 (+ 7.1)
ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。 [新規]		91.7 (54.9)	+ 5.6 (+10.3)	91.1 (52.1)	+ 4.9 (+11.1)

学校質問調査	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか。	97.1 (53.7)	+ 2.0 (- 6.8)	94.3 (46.7)	+ 3.5 (- 5.3)
前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。	(週1回以上) 98.2	- 1.0	(週1回以上) 98.1	- 0.4
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	(週1回以上) 84.0	+ 0.4	(週1回以上) 82.9	+ 0.8
児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	(週1回以上) 69.7	- 4.1	(週1回以上) 72.4	+ 2.8
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	(週1回以上) 81.7	- 1.9	(週1回以上) 61.9	-12.1

ICT機器を家庭で利用できるようにしている学校の割合が増加しています。

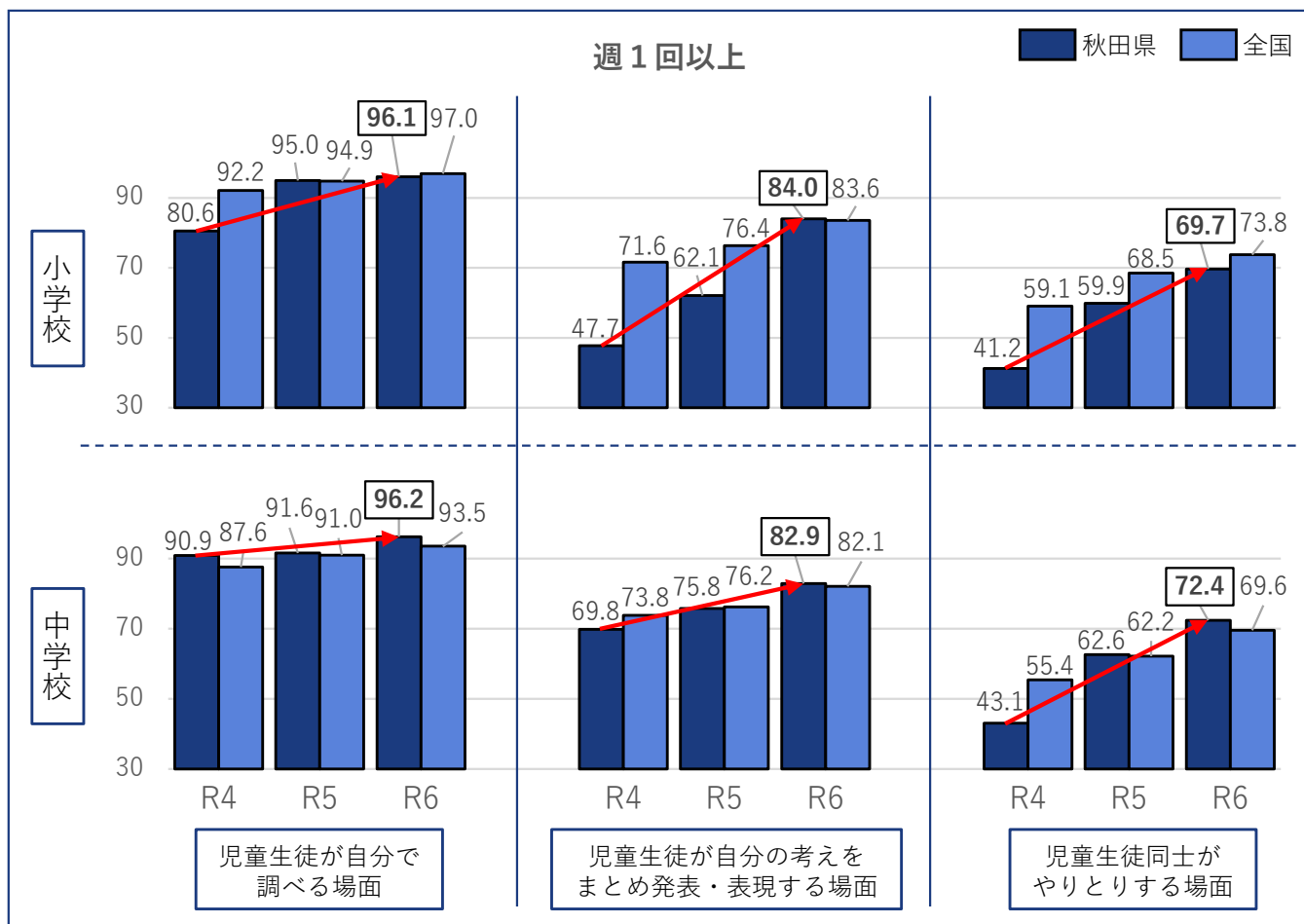
【学校質問調査】 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。（毎日～時々の割合の合計）



ICTを活用した学習状況

学校質問調査の結果には、場面ごとの活用頻度（週1回以上）は、どの場面においても昨年度より割合が増加しており、全国平均と同程度となっている状況が表れています。

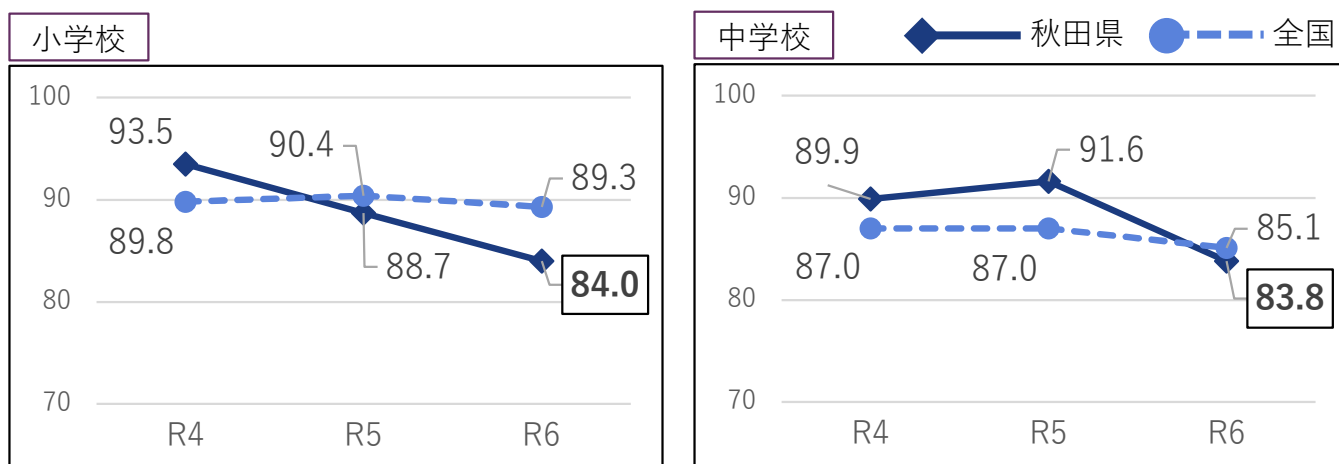
調査対象学年の児童生徒に対して、次のような場面で、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか。



主体的・対話的で深い学び（経年変化）

学校質問調査の「課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動」に関する質問について、肯定的な回答の割合を経年比較してみると、減少傾向が見られます。

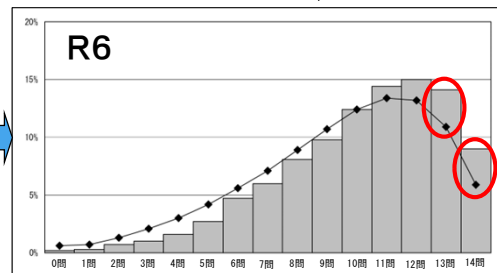
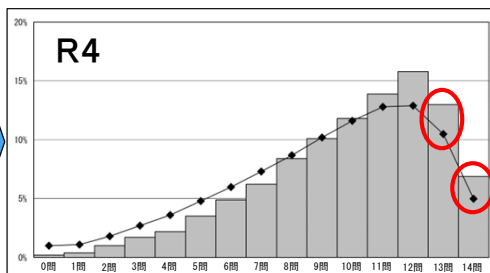
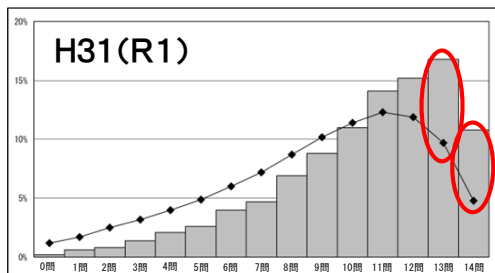
授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。（「よく行った」、「どちらかといえば、行った」と回答した割合の合計）



国語、算数・数学の調査結果概況（H31～R6の経年変化）

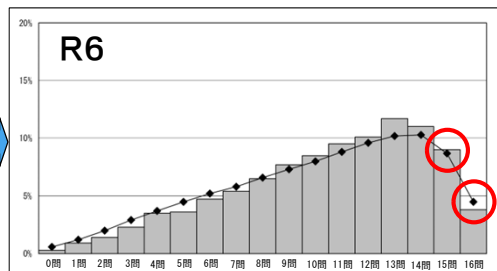
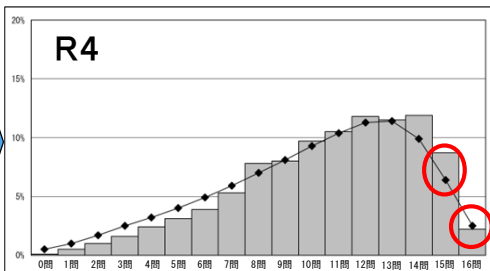
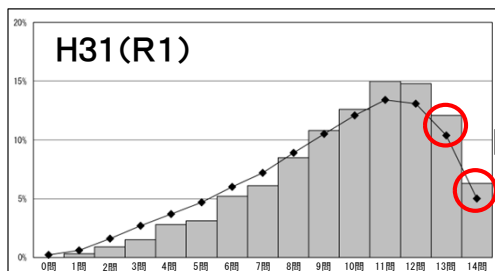
小学校国語及び算数の調査結果概況の経年比較から、本県の正答数が多い層の割合に着目すると、国語は全国より高い状況が維持され、算数は全国との差に縮小傾向が読み取れます。

小学校・国語



■ 秋田県 ◆ 全国

小学校・算数

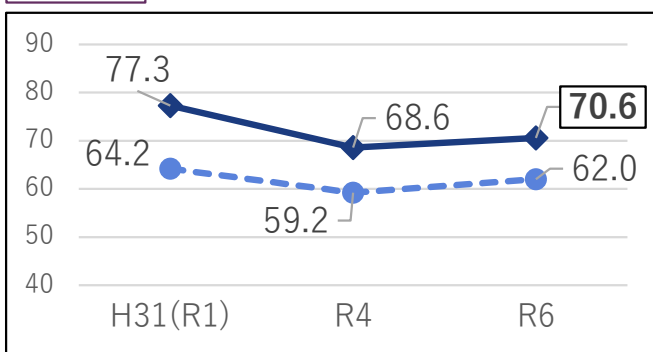


国語、算数・数学に関する興味・関心（H31～R6の経年変化）

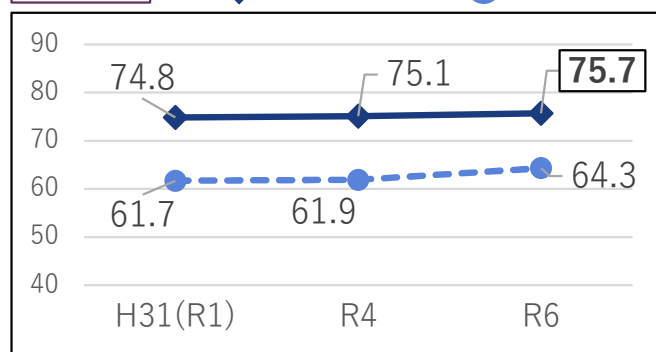
児童生徒質問調査の経年比較の結果から、学習に対する興味・関心について肯定的な回答の割合は、国語は全国より高い状況が維持されており、算数・数学は全国との差に縮小傾向が読み取れます。

国語の勉強は好きですか。（「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計）

小学校



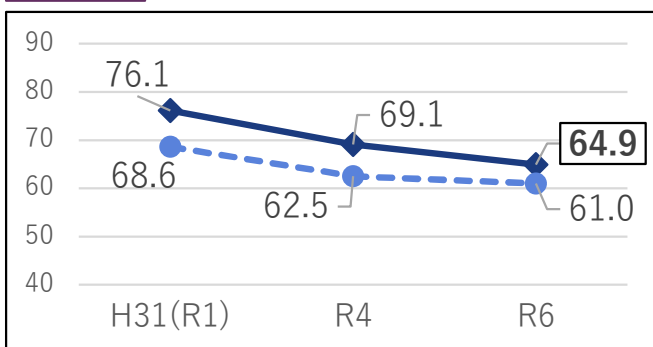
中学校



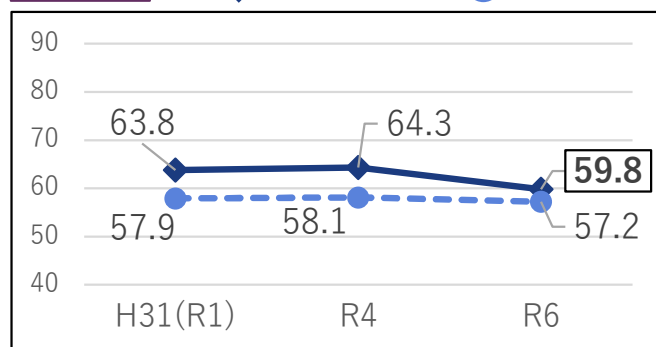
◆ 秋田県 ● 全国

算数(数学)の勉強は好きですか。（「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計）

小学校



中学校

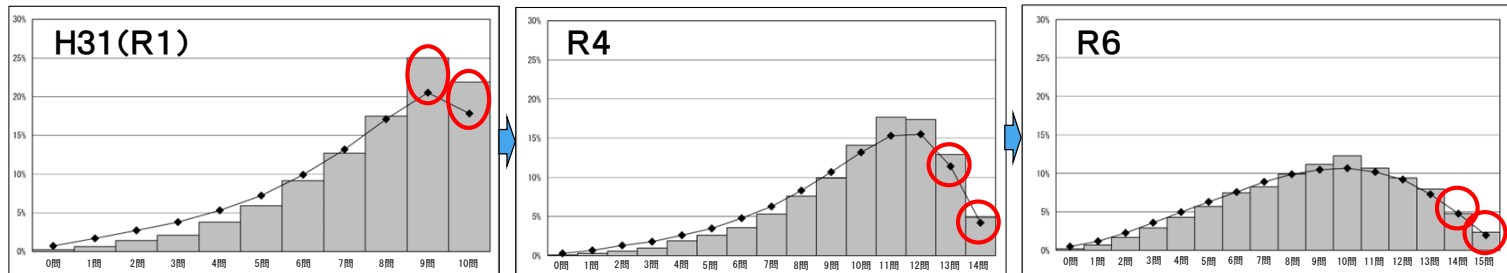


◆ 秋田県 ● 全国

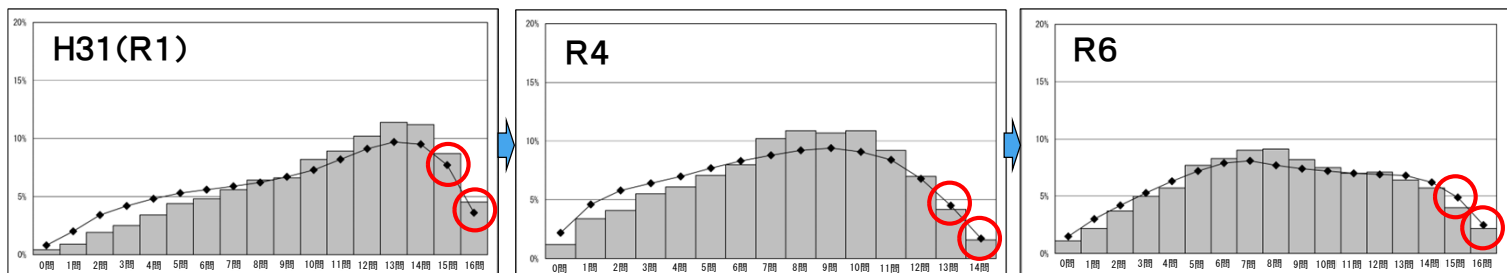
国語、算数・数学の調査結果概況（H31～R6の経年変化）

中学校国語及び数学の調査結果概況の経年比較から、本県の正答数が多い層の割合に着目すると、国語、数学ともに、全国との差に縮小傾向が読み取れます。また、分布の山が右側から中央に偏ってきている様子も読み取れます。

中学校・国語



中学校・数学

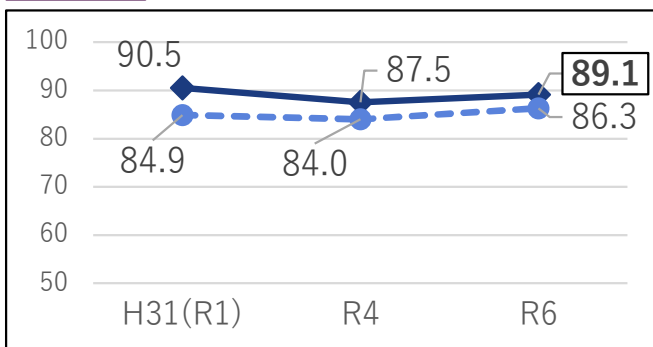


国語、算数・数学に関する授業の理解度（H31～R6の経年変化）

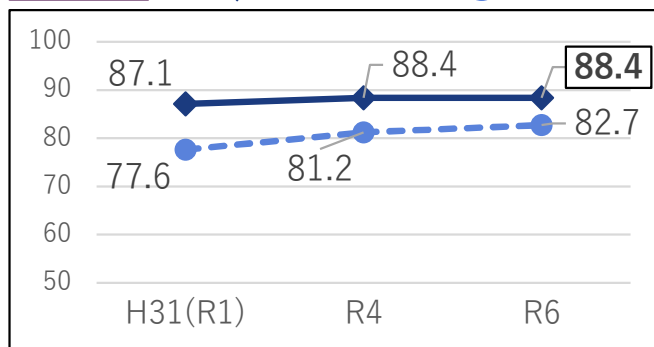
児童生徒質問調査の経年比較の結果から、授業の理解度について肯定的な回答の割合は、国語、算数・数学ともに全国より高い状況が維持されているものの、全国との差に縮小傾向が読み取れます。

国語の授業の内容はよく分かりますか。（「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計）

小学校

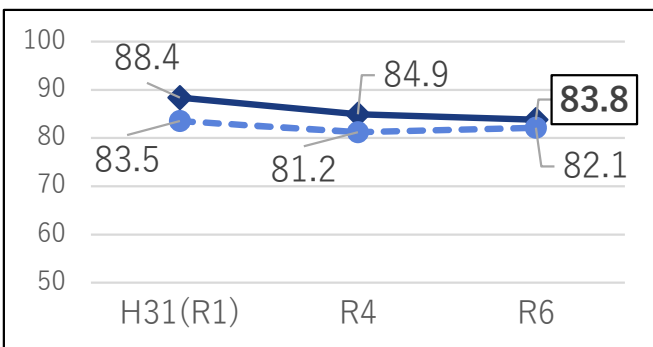


中学校

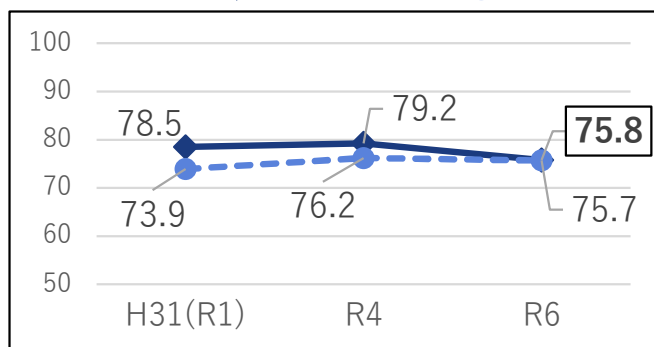


算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか。（「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計）

小学校



中学校



一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を基に、「安定した成果を示している学校」「課題の改善状況が顕著である学校」がもつ特長から、学力向上を支える関連因子を見付け、それらを「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～」としてまとめてきました。各学校においては、この「5つのエッセンス」を、児童生徒の一層の学力向上に活用していただければ幸いです。

1 学校体制でPDCAサイクルを生かした共同研究

学校質問調査では「全国調査の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」「全国調査の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、教育指導の改善を行っている」などが全国の結果を上回っており、本県が提唱する全国学力・学習状況調査、秋田県学習状況調査、高校入試を一体と捉えた検証改善システムの充実が進んでいます。

2 子どもたちが安心して学習できる環境づくり

児童生徒質問調査では「自分にはよいところがある」「先生は、自分のよいところを認めてくれている」「将来の夢や目標を持っている」などが全国の結果を上回っています。これは子どもたちが前向きで真摯な姿勢であることはもちろんですが、児童生徒のよさや可能性を積極的に評価して、自己有用感をもたせようと工夫を凝らしている本県の教師・学校のきめ細かく温かな学習環境づくりが生み出した結果です。

3 子どもたちの思考を促し深める探究型の授業づくり

本県では、児童生徒が問題を発見し話し合うなど、他者との関わりを通して、主体的に問題を解決する探究型授業が盛んです。児童生徒質問調査では「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」などが全国の結果を上回っています。今後は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、ICTを適切な場面で効果的に活用しながら授業改善を進め、児童生徒一人一人の学びの質を高めることが一層求められます。

4 自発的な学習を生み出すきめ細かな指導

子どもたちに確実に資質・能力を身に付けさせるためには、児童生徒の実態を踏まえ、自発的な学習を促す指導の工夫が大切です。学校質問調査では「家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている」「家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている」が全国の結果を上回っています。今後更なる学力向上を期して、家庭学習の充実に向けた指導、補充的な学習や発展的な学習、自ら「問い」をもつことができる子どもの育成に向けた指導などに、全校体制で組織的・継続的に取り組むことが求められます。

5 豊かな教育力を生む学校・家庭・地域の強い連携

学校・家庭・地域等のオール秋田でつくってきたすばらしい教育環境が、本県の教育の強みです。子どもたちの授業に向かう姿勢、家庭学習の充実なども、それと関わりがあります。本県では、学校から家庭や地域への働き掛け・呼び掛けが特に丁寧に行われており、学校・家庭・地域の豊かな連携を生み出しています。

令和6年度
全国学力・学習状況調査等の
活用に係る検証改善委員会

委員一覧

※敬称略

職名は令和6年10月現在

成田雅樹	秋田大学大学院教育学研究科教授
佐藤学	秋田大学大学院教育学研究科教授
佐々木雅子	秋田大学教育文化学部教授
伊藤悟	義務教育課長
長門亮	義務教育課チームリーダー
真崎敦史	義務教育課副主幹
村井啓子	北教育事務所指導主事
荒川孝洋	北教育事務所指導主事
石井和史	中央教育事務所指導主事
佐藤和歌子	南教育事務所雄勝出張所指導主事
村上丈二	義務教育課指導主事
佐藤整	義務教育課指導主事
藤原正貴	義務教育課指導主事
矢吹敦	義務教育課指導主事
吉田茂樹	義務教育課指導主事